座長　久保長生（脳神経外科）

12. Primitive neuroectodermal tumor の1例

増田昭博・西川俊郎・中野達也・笠島　武（第2病理）
久保長生（脳神経外科）

13. Esthesioneuroblastoma の2例

遠山　隆・久保長生・田鹿安彦・河村　弘・清水　隆・
氷室　博・井上憲夫・坂入光彦・片平真佐子（脳神経外科）

14. Acquired pendular nystagmus 様異常眼球運動を認めた脳幹部梗塞の1剖検例

中地　愛・伊藤道子・小森隆司・佐々木彰一・小林逸郎・
竹宮敏子・丸山勝一（神経内科）
豊田智里・武石　詢（第1病理）

座長　笠島　武（第2病理）

15. ブドウ球菌感染症 toxic shock syndrome 発症機序の解析：
toxic shock syndrome toxin-1標的細胞の同定

内山竹彦・今西健一・斉藤慎二・厳　小傑・荒明美奈子（微生物）

16. 皮膚良性および悪性腫瘍における *myc* 遺伝子産物の発現の検討

前口瑞恵（皮膚科）

閉会の辞　西川俊郎（第2病理）

1. 著しい粘液気管支塞栓を示した17歳気管支癌全摘例の病理所見について

（呼吸器外科）石倉　俊策・大貫　恭正・
毛井　純一・新田　澄郎
（第1病理）武石　　詢
（病院病理）相羽　元彦
（呼吸器内科）藤原　和代・滝沢　敬夫

気管支原発の粘表皮癌はまれな腫瘍であるが，今回我々は左主気管支に発生し著しい気管支粘液塞栓を示した本症の全摘例を経験したので報告する．

症例は17歳，女性．左主気管支内腔に突出する腫瘍が認められ悪性腫瘍の疑いにて手術を施行した．腫瘍は左主気管支をほぼ閉塞し，一部気管支外へ突出し，末梢の気管支には著しい粘液気管支塞栓が認められた．また腫瘍内部にも粘液の貯留が見られ，腫瘍外へ粘液が流出している部分が認められた．組織所見では，腫瘍は気管支粘膜上皮下より圧排性に進展しており，粘液を産生する腺様構造，扁平上皮様の細胞による充実性の胞巣が認められた．また両者の中間型の細胞も見られ粘表皮癌と診断した．

2. 特異な組織像を呈した甲状腺乳頭癌の1例

（病院病理科）相羽　元彦・平山　　章

多彩な組織像を呈した甲状腺乳頭癌の1例について，原発巣も浸潤転移巣の組織像を比較，また108例の甲状腺乳頭癌における組織表現と比較した．

結果：1．症例は，甲状腺には，①定型的な乳頭状増殖像，②索状/管状あるいは幼若な二次甲状腺濾胞の形態，③管腔が不明瞭になり，胞体が明調な細胞の二次濾胞型の構造，④扁平上皮化生/扁平上皮癌の組織像，⑤紡錘型細胞の錯綜する束状増殖を認めた．2．血管侵襲像，甲状腺周囲筋肉・気管浸潤像，リンパ節・骨転移巣はいずれも②が主体であり，④⑤は局所に限局性であった．3．108例の甲状腺乳頭癌についても，定型的な増殖形式である①②の像の他に③④⑤の像も一部の症例に見られた．

結論：1．多彩な組織像の中で，乳頭癌よりも予後が悪いとされる④⑤の要素が限局していたのは，④⑤が乳頭癌を母地として比較的最近生じたためと思われる．2．③④⑤が小さな部分像として認められる症例の予後予測についてはさらに検討が必要である．

3. 慢性関節リウマチにおける血管内皮細胞の免疫病理学的検討

（リウマチ痛風センター）
中嶋ゆう子・佐藤　和人・檜垣　　恵・
宮坂　信之・西岡久寿樹

慢性関節リウマチ（RA）は滑膜組織をその病変の主座とし，滑膜組織において血管の増生，リンパ球浸潤，滑膜細胞の増殖がさかんに行なわれていると考えられている．今回我々はRA 26例，non-RA 6例の滑膜組織についてそれぞれの滑膜血管の増生度を比較検討